両親媒性アニオンによる 低分子量G蛋白質Racの活性化と活性酸素生成¹⁾

技術センター 医学部等部門 総合薬学科技術班 濁川 清美

NIGORIKAWA Kiyomi : Division of Molecular Medical Science, Graduate School of Biomedical Sciences, Hiroshima University

1. 序文

好中球,マクロファージなどの食細胞の細胞 膜上には活性酸素生成を触媒する酵素:NADPH オキシダーゼが存在する.この酵素により生成 された活性酸素は,細菌を攻撃するために使わ れる一方で生体組織を損傷し炎症を悪化させる こともある.このような,活性酸素による負の 影響を抑える治療薬を開発するため,NADPH オキシダーゼ制御機構の解明が急務となってい る.

NADPHオキシダーゼは、活性本体のチトクロ ームb₅₅₈ (gp91phoxとp22phoxの二量体)と3つ の制御因子 (p47phox, p67phox, 低分子量G蛋 白質Rac)より構成される (Fig. 1).休止状態の 細胞では、各制御因子は細胞質に局在するが、 受容体刺激を受けると、細胞膜上のチトクロー ムb₅₅₈と会合し、活性複合体が形成される.

制御因子のうちp67phoxは,gp91phoxに直接作 用して酵素活性を制御する重要な因子であるが, 単独ではgp91phoxとの親和性は弱い.p67phox がgp91phoxと安定に相互作用するためには, p47phoxとRacが共にアダプター分子として働 く必要があると考えられている.p47phoxとRac は共に, p67phox及びチトクロームb₅₅₈との結合 部位を有する.この結合部位は,細胞が活性化 された時のみ,分子構造が変化した結果,機能 すると考えられている.

p47phoxとRacの分子構造変化を起こすシグ ナル分子として、アラキドン酸(AA)などのア ニオン性脂質が考えられている.これは、アニ オン性脂質や、これと似た性質をもつ(両親媒 性アニオンである)SDSが、無細胞系でNADPH オキシダーゼの活性複合体形成を促進するため である.しかしながら、この無細胞系での作用 は、生理的には考えにくい高濃度を必要とする. このため、アニオン性脂質が細胞レベルで機能 することは疑問視されていた.しかし、最近の 研究により、p47phoxに関しては、低濃度のアニ



オン性脂質とPKCによるリン酸化が相乗的に作 用し、分子構造変化を引き起こすことが提案さ れている²⁾. 一方、Racの分子構造変化、すなわ ちGDP結合型(不活性型)からGTP結合型(活 性型)への変換に、アニオン性脂質が関与して いるのかについて、細胞レベルでの検討はされ ていない. 両親媒性アニオンが、Racの細胞質 での会合分子、Rho-GDI (guanine nucleotide dissociation inhibitor)からの解離を促進すること が、無細胞系で確認されているが、やはり高濃 度を要求する³⁾.

本研究では、アニオン性脂質が「細胞レベル の NADPH オキシダーゼ活性化」に関与するの かを明らかにするため、無細胞系では効果のな い低濃度両親媒性アニオンの、細胞での効果を 検討した.

2. 結果·考察

モルモット好中球に,低濃度のAA 又はSDS を作用させても,殆ど応答は観察されなかった (Fig. 2, 3).しかし,細胞を予め,Ser/Thr プロ テインホスファターゼ阻害薬のカリクリンAで 処理することによって,p47phoxをリン酸化し ておくと,両親媒性アニオンは強力に活性酸素 生成を増大させた(Fig. 2, 3).これより,低濃 度両親媒性アニオンが,p47phoxとRacの活性 化(分子構造変化)に関与していると推測した.

そこでまず,p47phoxのリン酸化レベルと膜への移行量を調べた.その結果,カリクリンA 処理によってp47phoxは強力にリン酸化され, 膜画分へ移行したが,SDSはこれに余り影響し



Fig. 2 Effect of SDS on the NADPH oxidase activity of calyculin A-treated neutrophils. Neutrophils were incubated with 0.1 µM calyculin A or DMSO at 37°C for 5 min. A, Production of O_2^{-1} was monitored with or without the addition of 50 μ M SDS. B, The cells were further incubated with or without 50 µM SDS for 10 min. The cells were then disrupted and the membrane preparations therefrom were analyzed for NADPH oxidase C, The cells were further incubated for 10 activity. min with or without the addition of various concentrations of SDS. Production of O_2^- during the incubation was measured.

なかった(Fig. 4). この結果から, p47phox の 分子構造変化は,リン酸化によって十分に達成 されると考えられた.







Neutrophils were incubated with 0.1 μ M calyculin A or DMSO at 37°C for 5 min. A, The cells were further incubated for 10 min with or without the addition of various concentrations of AA. Production of O₂⁻ during the incubation was measured. B, The cells were further incubated with or without 2.5 μ M AA for 10 min. The cells were then disrupted and the membrane preparations therefrom were analyzed for NADPH oxidase activity.

次に Rac の膜への移行量と活性化を検討した. その結果,カリクリンA処理の有無に関わらず, SDS は膜への移行と活性化を促進していた (Fig. 4,5). このことから,両親媒性アニオンは細胞 レベルで, Rac の制御を介して NADPH オキシ ダーゼの活性化に関わっていると考えられた. さらに以上の結果は, p47phox と Rac の活性化



Fig. 4 Effects of SDS and calyculin A on the translocation of each component of NADPH oxidase.

A, ³²P-labeled neutrophils were treated with 0.1 µM calyculin A or DMSO at 37°C for 5 min, and then for 10 min with or without the addition of 50 µM SDS. The lysate of the cells was mixed with the anti-mouse p47^{phox} antibody. The proteins in the immune complex were separated by SDS-PAGE and analyzed for the radioactivity. B, C, D, Neutrophils were incubated with 0.1 µM calyculin A or DMSO at 37°C for 5 min, and then for 10 min with or without the addition of 50 μM SDS. The cells were disrupted to prepare the The peptides in the fraction membrane fraction. were subjected to SDS-PAGE, transferred to PVDF membranes, and analyzed with antibodies against p47^{phox} (B), Rac (C), or p67^{phox} (D).

が別々に制御されることを示唆している.

ヒト好中球の Rac 活性化に, PI-3 キナーゼが 関与すると報告されている. そこで, SDS によ る Rac の膜移行と活性化に, PI-3 キナーゼ阻害 薬 (LY294002 及びワートマニン)が影響するか 検討した. 結果, PI-3 キナーゼ阻害薬は, SDS による Rac の膜移行には何ら影響しなかったが, 活性化を阻害した (Fig. 5). この結果は, 細胞 レベルでの Rac の活性化が (1) PI-3 キナーゼ非 依存的な膜移行と (2) PI-3 キナーゼ依存的な活 性化の 2 段階で制御されていることを示してい る.



Fig. 5 Inhibitory effect of LY294002 on the SDS-induced activation of Rac.

Neutrophils were treated in the presence or absence of 0.1 µM calyculin A with or without 100 µM LY294002 at 37°C for 5 min. The cells were further incubated for 10 min with or without the addition of 50 µM SDS. A, The cell lysate was incubated with PAK2-RBD-bound beads for 10 min. Proteins bound to the beads were solubilized, subjected to SDS-PAGE, transferred to PVDF membrane, and analyzed with the B, The cell lysate of was antibody against Rac. subjected to Western blotting analysis with C, The membrane fraction from the anti-Rac. cells was subjected to the Western blotting analysis with anti-Rac.

さらに、PI-3キナーゼ阻害薬は、カリクリン AとSDSを処理した細胞での活性酸素生成を抑 制した.この結果より、PI-3キナーゼ依存的な Racの活性化は、活性酸素生成に必須であると 考えられた.さらに、PI-3キナーゼの関与を証 明するため、PI(3,4,5)P₃を細胞に導入し、活性酸 素生成に与える影響を観察することにした. PI(3,4,5)P₃を導入する前に、細胞はカリクリンA 処理してp47phoxのみを活性化し、同時にPI-3 キナーゼ阻害薬により内在のPI(3,4,5)P₃レベル を低下させた.この細胞に、SDSまたは、 PI(3,4,5)P₃のみを処理しても、活性酸素生成は弱 かったが、両方を処理すると相乗的に活性酸素 生成が増大した(Fig. 6-B).この結果より、細 胞レベルで活性酸素生成を導くRacの活性化は、



Fig. 6 Effect of PtdIns 3,4,5-P₃ on the superoxide production of wortmannin-treated neutrophils.

A, Neutrophils were incubated with 0.1 μ M calyculin A in the presence of 100 μ M LY294002, 1 μ M wortmannin or DMSO (control) at 37°C for 5 min. After the addition of 50 μ M SDS, production of O_2^- during a 10-min incubation was measured. B, Neutrophils were incubated with 0.1 μ M calyculin A and 0.5 μ M wortmannin at 37°C for 7 min. At time 0 in the figure, 5 μ M PtdIns (3,4,5) P₃ or empty carrier (10 μ M histone) was added. The cells were then incubated for 3 min before the addition of 50 μ M SDS or H₂O (control).

両親媒性アニオンとPI(3,4,5)P₃の二つのシグナ ル分子の制御を受けると推測された(Fig. 8).

最後に,細胞レベルで観察された Rac の膜移 行が,両親媒性アニオンの直接的な作用の結果 であるのか,無細胞系で確認した.その結果, 無細胞系でも SDS は Rac を膜画分へと移行させ た (Fig. 7-A). SDS は p47phox も移行させたが,





A, B, The membrane and the cytosol fractions from neutrophils were mixed and incubated at 25°C for 3 min with various concentrations of SDS. The membrane fraction was collected and analyzed by anti-Rac (A) or anti- $p47^{phox}$ (B).

これは Rac の移行と比較すると、高濃度を要求 した(Fig. 7).従って、細胞レベルでも、無細 胞系でも、両親媒性アニオンは直接作用により、 Rac をより選択的に膜移行させることが明らか となった.

以上の検討により、両親媒性アニオンである SDS は、Rac の膜移行を促進することにより、 細胞レベルの NADPH オキシダーゼ活性化に関 与することが示された(Fig. 8). この知見は, 生理的な両親媒性アニオンであるアラキドン酸 やホスファチジン酸などが同様の作用を持つ可 能性を示唆している. Rac は NADPH オキシダ ーゼの制御以外にも,細胞の運動や接着などの 制御に関与している. これらの制御においても 両親媒性アニオンの関与が推測される.

参考文献

 Nigorikawa, N., Okamura, N., and Hazeki, O. (2004) The Effect of Anionic Amphiphiles on the Recruitment of Rac in Neutrophils. *J. Biochem.* 136, 463-470

 Shiose, A., and Sumimoto, H. (2000)
Arachidonic acid and phosphorylation synergistically induce a conformational change of p47phox to activate the phagocyte NADPH oxidase. *J Biol Chem.* 275, 13793-13801
Chuang, T.H., Bohl, B.P., and Bokoch, G.M.
(1993) Biologically active lipids are regulators of Rac.GDI complexation. *J Biol Chem*, 268, 26206-26211

